

第 2 回 SPARC Japan セミナー2018

「オープンサイエンス時代のクオリティコントロールを見通す」

開会挨拶 / 概要説明

八塚 茂

(科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター)



八塚 茂

国立研究開発法人科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター研究員。システムエンジニア等を経て、2015年10月より現職。研究対象が多様でかつ各研究機関に分散している生命科学系のデータを収集し、調査や整理を行った上でメタデータを付与し、明確な利用許諾のもとで公開する事業に携わっている。



本日は、第 2 回 SPARC Japan セミナー2018「オープンサイエンス時代のクオリティコントロールを見通す」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。今週 10 月 22 日から 28 日までは世界的なオープンアクセスウィークです。本セミナーは、この一環としての「オープンアクセス・サミット 2018」というイベントにもなっています。

オープン化のアクセラとブレーキ

今年度の SPARC Japan の年間テーマは、「オープンサイエンスの定着に向けて」です。オープンアクセス、オープンサイエンスなど、似たような言葉が多く飛び交いますが、要は、サイエンスはオープンであるし、オープンにしていくことが大切なのではないかと理解しています。

前回の第 1 回セミナーは、「データ利活用ポリシーと研究者・ライブラリアンの役割」と銘打って行いました。こちらでは、データオープン化を進めるための利活用ポリシーやオープン化を担う人材としての研究者・ライブラリアンに焦点を当てました。これはオー

ペン化のための、いわばアクセラの部分であると理解しています。

一方、今回のセミナーでは、オープン化されるもののクオリティコントロールに焦点を当てています。これはいわばブレーキに当たるものだと考えています。もちろん、ブレーキといっても、オープン化を阻害するものではなく、むしろオープン化を前に進めるための必要な機構であると考えています。

本日は、オープンサイエンス時代のクオリティコントロールはどのようなものであるべきかということにつきまして、皆さまと共に考えていきたいと思えます。

セミナーの流れ

本日は、午前中に 2 件、講演を行います。これはいずれも英語です。その後でいったん Q&A セッションを行い、会場の皆さまからのご質問を受けたいと思います。午後も 2 件の講演があり、こちらは全て日本語です。その後でパネルディスカッションに入ります。大変な長丁場になりますが、皆さまの積極的な議論へのご参加をお願いいたします。